



大名細川家700年の歴史と出会う

Experience the 700 Year History of the Hosokawa Daimyo Family

永青文庫 令和6(2024)年度 展覧会計画

令和6年度は、永青文庫の所蔵作品から博物図譜や工芸など多彩な展覧会を開催します。一押しは秋の織田信長展。

細川家に伝わった信長の書状を一挙公開！

唯一確実とされる直筆書状は必見です。どうぞご期待ください。



重要文化財「織田信長自筆感状」細川忠興宛（天正5年〈1577〉）10月2日

※展覧会の内容・会期等は変更となる場合がございます。

令和 6 年度初夏展

殿さまのスケッチブック (仮)

会 期 = 4/27 (土) ~6/23 (日)

休 館 日 = 毎週月曜日 (ただし 4/29・5/6 は開館し、4/30・5/7 は休館)

開館時間 = 10:00~16:30 (入館は 16:00 まで)

日本の博物学は、中国の薬学・博物学である「本草学」に学びながら発達し、18 世紀には「博物趣味」に熱中する大名が多く現れました。細川家熊本藩 6 代藩主の重賢^{しげかた} (1720~85) は、その先駆けとされています。重賢は、熊本藩の藩政改革、産業奨励、藩校時習館の設立などを行って「肥後の鳳凰」と称される一方、動物、昆虫、植物など様々な博物図譜を残しました。驚くほど細かく描き込まれた図譜からは、カメラなどが無い時代の自然に対するひたむきな情熱と好奇心が感じられます。本展では、細川家の殿さまが見た様々な「リアル」を「殿さまのスケッチブック」として紹介します。



1 竹原玄路筆 谷口鶏口賛
「細川重賢像」
江戸時代 (18 世紀)



2 「毛介綺煥」(部分)
江戸時代 (18 世紀)



3 「昆虫宵化図」(部分)
江戸時代 (18 世紀)



※すべて永青文庫蔵

令和6年度夏季展

カ モ ン
Come on! 九曜紋 (仮)

会 期 = 7/27 (土) ~9/23 (月・振休)

休 館 日 = 毎週月曜日 (ただし 8/12・9/16・9/23 は開館し、8/13・9/17 は休館)

開館時間 = 10:00~16:30 (入館は 16:00 まで)

細川家の家紋・九曜紋は、9つの星(日・月・火・水・木・金・土の七曜星と日月食や彗星^{すいせい}に
関係する羅睺星^{らご}・計都星^{けいと})を表すといわれます。星の信仰に由来し、古くから加護を願って
車や衣服にあしらわれ、やがて家紋として広く用いられるようになりました。細川家では、
2代忠興^{ただおき}(1563~1645)が織田信長より九曜紋を拝領したと伝えられ、なかでも多用された
9つの円が離れた紋は「細川九曜」とも呼ばれます。そして九曜紋は、武器武具から調度品、
染織品、掛軸の表装にいたるまで、様々なところに表されました。

当館初となる家紋をテーマとした本展では、こうした大名家の伝来品にみられる九曜紋を
幅広く展示し、細川家と九曜紋の関わりを紹介します。作品のあちこちに隠された九曜紋を
探しに、2024年夏は永青文庫へ Come on!



4「白羅紗九曜紋付陣羽織」
江戸時代(17~18世紀)



6「色絵九曜紋散香炉」
江戸時代(19世紀)



5「九曜紋蒔絵貝桶・合貝」
江戸時代(19世紀)



7「桜唐草九曜紋螺鈿料紙箱」
江戸時代(18~19世紀)

※すべて永青文庫蔵

令和 6 年度秋季展 熊本大学永青文庫研究センター設立 15 周年記念

織田信長文書の世界 (仮)

会 期 = 10/5 (土) ~12/1 (日)

休 館 日 = 毎週月曜日 (ただし 10/14・11/4 は開館し、10/15・11/5 は休館)

開館時間 = 10:00~16:30 (入館は 16:00 まで)

戦国乱世を駆け抜けた武将・織田信長 (1534~82)。永青文庫には、細川家伝来の信長の手紙 59 通 (重要文化財) が所蔵されていますが、これほど多くの手紙が一家所にまとまって伝わる例は他に類を見ません。15 代将軍・足利義昭との対立から本能寺の変まで、激動の 10 年間で永青文庫の資料だけで追うことができ、唯一直筆とされる手紙をも含む点で、質量ともに突出したコレクションと言えます。

本展ではそれらを一挙に公開し、信長上洛と将軍没落、一向一揆との死闘、長篠合戦、荒木村重謀反、明智光秀による本能寺の変など、天下へ向けた信長の栄光と挫折のストーリーを、信長に仕えた細川藤孝 (1534~1610) らの動向とともに丁寧に読み解きます。革新的、破天荒、残虐、超人といった現代の多くの人が抱く信長のイメージは真実なのか——。永青文庫の歴史資料から真の信長像を明らかにします。



8 重要文化財「織田信長自筆感状」
細川忠興宛 (天正 5 年 (1577)) 10 月 2 日



9 重要文化財「明智光秀覚条々」
細川藤孝・忠興宛 (天正 10 年 (1582)) 6 月 9 日



10 伝田代等有筆「細川幽斎 (藤孝) 像」
江戸時代 (17 世紀)

令和6年度早春展

永青文庫の日本陶磁コレクション（仮）

会 期 = 2025 年 1/11（土）～4/13（日）

休 館 日 = 毎週月曜日（ただし、1/13・2/24 は開館し、1/14・2/25 は休館）

開館時間 = 10：00～16：30（入館は16：00 まで）

永青文庫では、様々な日本の陶磁作品を所蔵しています。八代焼（^{やつしろやき}高田焼、^{こうだやき}平山焼）は、熊本県八代市^{こうだ}高田発祥の陶器で、細川家2代・^{ただおき}忠興が陶工・^{もんかい}尊楷（^{もりたつ}上野喜蔵）を招いたことにより始められました。熊本藩の御用窯として幕府の使者への進物に重用され、素地に陶土を埋め込む象嵌技法で知られます。

大正から昭和にかけて活躍した陶芸家・^{かわいかんじろう}河井寛次郎（1890～1966）は、初期には中国の古陶磁を模範とした作品で注目され、永青文庫の設立者・細川^{もりたつ}護立（1883～1970）の中国陶磁コレクションからも学びました。後に「民藝運動」の一員として活動し、大きく作風が変化しています。

八代焼や河井寛次郎の作品は約20年ぶりの紹介です。この機会にその多彩な魅力をご覧ください。



11 「象嵌牡丹文茶碗」
江戸時代（17 世紀）



12 「白磁象嵌藤花文茶碗」
江戸時代（19 世紀）



河井寛次郎「紫紅鉢」



13 河井寛次郎「彩碗」

広報画像申請書
永青文庫 広報担当 行

FAX : 03-3943-0454
MAIL : eisei-pr@eiseibunko.com

貴社名 :

媒体名 :

ご担当者名 :

ご所属 :

TEL :

FAX :

ご住所 : 〒

E-mail :

掲載予定日 : 年 月 日

掲載概要 : (コーナー名、画像の掲載サイズ など)

☐ 読者プレゼント用チケット (5組10名様) ご希望の場合はチェックを付けてください。

※各展覧会の閉幕1ヶ月前までにご紹介頂ける場合に限らせて頂きます。

※チケットはゲラの確認後に送付いたします。

◆ご希望の写真番号に○を付けてください。

- 1、竹原玄路筆 谷口鶏口賛「細川重賢像」江戸時代 (18世紀)、永青文庫蔵
- 2、「毛介綺煥」(部分) 江戸時代 (18世紀)、永青文庫蔵
- 3、「昆虫胥化図」(部分) 江戸時代 (18世紀)、永青文庫蔵
- 4、「白羅紗九曜紋付陣羽織」江戸時代 (17~18世紀)、永青文庫蔵
- 5、「九曜紋時絵貝桶・合貝」江戸時代 (19世紀)、永青文庫蔵
- 6、「色絵九曜紋散香炉」江戸時代 (19世紀)、永青文庫蔵
- 7、「桜唐草九曜紋螺鈿料紙箱」江戸時代 (18~19世紀)、永青文庫蔵
- 8、◎重要文化財「織田信長自筆感状」細川忠興宛、(天正5年〈1577〉) 10月2日、永青文庫蔵
- 9、◎重要文化財「明智光秀覚条々」細川藤孝・忠興宛、(天正10年〈1582〉) 6月9日、永青文庫蔵
- 10、伝田代等有筆「細川幽斎(藤孝)像」江戸時代 (17世紀)、永青文庫蔵
- 11、「象嵌牡丹文茶碗」江戸時代 (17世紀)、永青文庫蔵
- 12、「白磁象嵌藤花文茶碗」江戸時代 (19世紀)、永青文庫蔵
- 13、河井寛次郎「彩碗」、永青文庫蔵

【広報画像ご使用に際してのお願い】

※画像の使用は、展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。貸与した画像は、使用後速やかに消去願います。

※展覧会名、会期、会場、作品名称、所蔵者を必ずご掲載ください。

※掲載誌は1部ご惠贈願います。

【個人情報の取扱いについて】

※ご記入いただきました個人情報は、当館からの展覧会情報のご案内にのみ使用いたします。許可なく第三者に個人情報を開示することとは
ございません。